



四万十町
町内「ふら〜り」散策

上秋丸

かみ あき まる

先月号の日野地では県道19号が、上秋丸へはそれを左折せず、そのまま県道19号を直進し大野見方面へ向かう。しばらく行くと四万十川右岸に沿って数件の民家が建ち並ぶ集落に出会う。上秋丸である。集落の背後には、鉄道の高架のように水路が走る。対岸にも民家があるが、そこは大野見の「野老野」という地区である。もともと上秋丸は「松葉川村秋丸」であったが、昭和30年の町村合併による新・窪川町誕生にあたり、立西地区の窪川町秋丸と区別するため上秋丸と改称した。さらに歴史をさかのぼれば、上秋丸は大野見村に属しており、戦国期・天正年間の地検帳では大野見村分の中にある。また、江戸中期の記録にも「大野見村枝郷」となっている。

さて、岡田栄という人をご存知だろうか。明治6年1月10日、ここ上秋丸で生まれた栄は、北海道開拓を志した父に続いて屯田兵となり、北海道の警備と開拓にあたった後、日清戦争に従軍。帰国後上京して、東京法学院（現在の中央大学）に入学し法学を学んだ。法律家となった栄は、各地の地方裁判所の判事を歴任。検事、弁護士も務め、明治45年、衆議院議員となった。そして大正の時代に入った頃、出生地の上秋丸一帯が無電灯地帯であることを、地区住民からの要望という形で知る。栄は即座に事

業者を連れ人力車で帰郷。現地を調査したのち発電事業を実現させた。地区住民は大いに感謝し、地区の産土神とは別に「岡田神社」という社を作りお祀りしたという。しかし、時代の流れであろう、現在そのことを知る住民はほぼいないようである。産土神は河内五所神社で、水の神様として知られる、水速女命（ミスハノメ）を祀っている。急斜面を登った山の上にあつたのだが、お参りする地区住民の高齢化にともない移転した。



大水書を伝える石碑

ところで、河内五所神社があつた場所の登り口に、ひっそりと石碑が建っている。明治23年9月11日の大水害を伝えるものである。文末に「岡田善吉郎撰」「正岡五栄・秋丸部落建立」とある。この岡田善吉郎は岡田栄の父であり、正岡五栄は実弟である。

現在、8世帯14人が暮らしている。

町のうごき		(11月30日)				人口				前月比			
男	7,990	-21	男	3	19	10	15	出生	死亡	転入	転出		
女	8,836	-23	女	4	17	7	17						
計	16,826	-44	計	7	36	17	32						
世帯数	8,430	-13	(11月中の届出)										
		窪川地域	11,901人	大正地域	2,362人	十和地域	2,563人						

四万十川の水質状況		適正值(mg/l)		12月2日	
リン酸	≤ 1.0	測定範囲以下			
硝酸	≤ 0.5	0.54			
アンモニウム	≤ 5.0	測定範囲以下			
アニオン活性剤	≤ 1.0	0.05			
化学的酸素要求量	≤ 10.0	1.827			

調査：大正（吾川）
資料：四万十高校自然環境部